

**SDGs推進委員会発言要旨**

2018年2月14日 衆議院第二議員会館 14:00 ~ 15:30

江東区立八名川小学校長 手島利夫

2014年秋の参議院予算委員会では、荒木清寛先生に本校のESDカレンダーを取り上げていただき、当時の下村文部科学大臣から

「ESDカレンダーは、ユネスコスクールだけでなく、全国の学校に広めて所存である」という貴重な一言を引き出していただいたことは、日本の学校教育における快挙であると、その時の感動は忘れられません。

国会議員の先生方が、日本政府を大きく動かし、現在のSDGs円卓会議の設置や、ジャパンSDGsアワードの公募にまでつながっていることも、心より感謝しております。

さて、私のお伝えすることは、以下の3点です

1、日本中の企業や自治体等を巻き込んでSDGsを展開することは、大変重要なことと思います。しかし、学びの薄い、イベント的なもの、あるいは、競争原理でコンクールの的なものを表彰してばかりいると、そんなものに世界を変える力はありません。本気で取り組む人間の育成が重要なのです。SDGsは目標を分解したため、取り組みそのものを分解しかねない点にも心配があります。

どんな主体が、どの分野で取り組まれようとも、「教え込み」でなく「学び」を中心に据えて、全体構造を意識しながら実践を進めるようにしてほしいものです。そのことも含め、SDGsの中心にいつも**E d u c a t i o n**の**E**があることが重要です。

2、日本中、くまなく全てでSDGsを展開し、「総取り」できる方法があります。その準備もできました。それは「**全国に広がる全ての学校教育というネットワークの活用です**」  
一見すると時間がかかりそうですが、一番確実です。こどもを変えることによって保護者を変え、家庭が変わることによって地域を変えるのです。

全国全ての学校教育は「学習指導要領」で動いております。その『前文』に「持続可能な社会の創り手の育成』が示されました。これで、準備は整いました。

しかし、そのことを国民のほとんどだれも、理解できていません。また、校長たちも教員たちもほとんど理解できておりません。それは、報道関係者が、その重要性に気づかず、きちんとして報道がなされていないためであり、それもあって、文部科学省内部の方でさえも、あるいは各地の教育委員会の指導者の方々もあまり理解できていないためでもあります。

校長も含め、学校の教員は自分の専門教科・分野にしか目が向いていないので、前文などほとんど読んでいないのが現状なのです。

教育関係者を動かせるのは、**保護者、つまり国民の声の力**が重要です。

そのために**SDGs推進大使ピコ太郎さんのお力で、国民を動かし、教育観を変えていけば**、日本中を一斉に大きく変えることができるのです。そのための方策は2つあります。

1つめは、**つなげることで、広げ、深めるという視点を失わないこと。**

(エンバイロメント・ヒューマンライツ・インターナショナル・アンダスタンディング〜フーツ!!「SDGs!」)

そして教科・領域の学びもつなげることで深まりができる。これがESDカレンダーというイメージマップになります。)つまり、

(**社会科〜!、家庭科〜! 道徳〜!、理科〜フーツ!!「カリキュラム・マネジメント!」**)

指導要領で言うカリキュラム・マネジメントのことです。

そして、

2つめには「**子どもの学びに火をつける**」指導法です。本校の先生は、みんな、懐にチャッカ用のライターを持っています。これは、学習指導要領では「主体的・対話的で深い学び」と言っています。

(詳しいことは、**八名川小学校のパンフレットを開いた真ん中**に書いてあります。その実現方法は私の書いた「学校発・ESDの学び」という本をご参考にしてください。)

3、さて、日本政府はSDGs 円卓会議を設けましたが、「世界の持続可能性」を本気で推進しようと考えているのでしょうか。

**持続可能な世界は日本だけで実現可能なのでしょうか。**

自国の経済的な利益だけを主張しているトランプさんを放置して、持続可能な世界を実現できるのでしょうか。安倍首相が本当の友達なら、何かアドバイスをできるのではないのでしょうか。ロシアや中国、インドなど大規模にCO2を排出している国々をどのように巻き込むのか、その他の国々とどのような戦略的な取り組みを進めるのか、しないのか。SDGs 推進委員会の皆様、あるいはSDGs 円卓会議の皆様は、そこまで考えていただきたいものと思います。

このような3つの視点から皆さんで、**世界を変え得るSDGs 推進の手立て**を再構成し、推進されるよう提案いたします。

江東区立八名川小学校長 手島利夫

電話03-3633-5428 (学校)

メール：[t-tejima@koto-edu.jp](mailto:t-tejima@koto-edu.jp) (学校)

携帯090-9399-0891 (手島)